

令和 5 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471000545	事業の開始年月日	平成13年10月1日
		指定年月日	平成13年10月1日
法人名	株式会社 コムロード		
事業所名	もえぎケアセンター下倉田		
所在地	(〒244 - 0815 ) 横浜市戸塚区下倉田794-1		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和6年2月13日	評価結果 市町村受理日	令和6年4月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ 季節行事や誕生日会・一泊旅行・花火大会等、職員同士で意見を出し合い様々なイベントを開催し、入居者が楽しめるよう工夫をしている。  
・ 食事やおやつを作る時には入居者様の希望を取り入れて提供している。  
・ 全事業所の各ユニット内で入居者様の対応や職員の質の向上の為、目標を決めて取り組んでいる。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和6年3月8日	評価機関 評価決定日	令和3年3月26日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

#### 【事業所の優れている点】

##### ◇利用者寄り添うケア

職員は、利用者の気持ちに寄り添い、一緒になって共に生活するように心がけている。新人職員には、利用者を認知症者と思わず、尊敬の念を忘れずにその人の世界に入っていくこと、人生経験豊かな人・目上であることを忘れないことを教えている。

##### ◇多岐にわたる職員育成

年4回の内部研修(口腔ケア、虐待防止、ACP、応急処置)を行っている。介護職員初任者研修、認知症介護実践者研修等の資格取得外部研修を奨励している。新人職員には職員がマンツーマンでOJTを行っている。

##### ◇充実した医療連携体制

内科医による月2回の訪問診療、看護師による毎週の健康確認、看護師との24時間連絡体制、歯科衛生士による毎週の口腔ケア、看取り介護の体制がある。歯科衛生士の助言で治療があれば歯科医が訪問している。

#### 【事業所が工夫している点】

##### ◇ユニットごとの月別目標設定

事業所の基本理念をベースにし、毎月、ユニットごとにテーマを決めて掲示し行動している。例：「春が来た。季節を感じて過ごそう。」このテーマを背景に利用者にも明るく接し、春を感じてもらい、食事やレクリエーションを通じて充実した生活感を味わってもらうように努めている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	もえぎケアセンター下倉田
ユニット名	桜の家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念を玄関に置き、何時でも読める状態にしている。その理念を実践するために毎月テーマを決めユニットごとに取り組み結果を振り返っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所理念「福祉・介護の理念のもとに利用者と一体感のある介護サービスを創造する」を玄関、居間に」掲示し、考え方や行動の基本にしている。</li> <li>・困難事例を生じた際に理念に立ち戻り、サービスに反映している。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍が長期間に渡ったため地域支援は無かったが、入居者様との散歩時に地域の方々へのあいさつなど交流するようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍前は地域や事業所の行事を通じて地域住民と交流していた。</li> <li>・コロナウイルス5類移行後は様子を見ているが、まだ油断できず、散歩時の地域住民との挨拶程度であり、徐々に行動範囲を広げる考えはある。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族からの相談があれば随時対応している。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に実施し、報告等の情報の共有が行えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2か月ごとに対面方式で運営推進会議を開催し、事業所の状況を報告し、参加者と意見交換をしている。</li> <li>・事故・ヒヤリハットを中心に対応や工夫点について意見交換をしている。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故があった場合は報告している。必要に応じてアドバイスや相談に応じてもらったりしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区役所担当職員と緊密に連携できており、事業所の情報提供・諸手続き・行政情報入手に支障はない。</li> <li>・横浜市のグループホーム連絡会(ブロック別)に参加しており、定期開催の際に情報交換をしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束と虐待について、ミーティング時に、どのような行為が虐待や拘束に当たるか確認し職員間でもその時々で注意しあっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束廃止委員会を社内で2か月ごとに開催し、内容を事業所の職員にミーティングで周知している。</li> <li>・日々のケアでは、拘束に発展しないように職員の言動に互いに注意し合っている。</li> </ul>	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様にミーティングなどで話し合いを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束禁止関連のミーティング時に、虐待防止方法についても話し合っている。</li> <li>・神奈川県高齢福祉課作成の自己点検シート(スタッフ用、管理者用)を用いて、自己評価とケアへの応用に努めている。</li> </ul>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	複数の入居者が成年後見人制度を利用しているので実践で勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の相談から説明を行い入居後も不安や疑問点に対してはしっかり説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡の機会にコミュニケーションを取り、意見や要望を受けた際はミーティングで職員と共有している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者との日常会話、家族面会時、電話等を通じて事業所への意見や要望を把握し、可能なものは日常ケアに反映するように努めている。</li> <li>・ケアプラン作成・更新時に家族や利用者本人の要望を反映している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回あるミーティングにて職員間の意見交換を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常業務、毎月のミーティングを通じて意見を把握し、可能なものは業務に反映している。</li> <li>・職員の意見を反映できる場として、行事・レクリエーション等の企画・実行は職員の意見・主体性を優先している。</li> </ul>	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	タイムカードを使用し労働時間の厳守に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業規則により、勤続年数、資格等を考慮した給与体系があり、介護職員の処遇改善加算、ベースアップ、賞与のシステムがある。</li> <li>・無駄な残業をしないように勤務時間を厳しく管理し、公私のメリハリをつけて明日への活力を促している。</li> </ul>	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には職員が一人付いて業務に従事し、不明なことを教えられる環境にしている。他職員でも不安な介助等があれば一緒に行ったり熟練者からのアドバイスをもらえる様にしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年4回の内部研修(口腔ケア、虐待防止、ACP、応急処置)を行っている。</li> <li>・介護職員初任者研修、認知症介護実践者研修等の資格取得外部研修を奨励し、参加費用は事業所が援助している。新入職員には職員がマンツーマンでOJTを行っている。</li> </ul>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループ内で特定の課題に添った講習を行ったり、出入りしている医療関係者に専門的なことを入居者様の事例に合わせて教えていただいている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してすぐと、環境になれてきて職員と信頼関係を築いてからも、常に目と気を配り、本人から言葉で言われていない事でも声掛けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や随時来訪される時に希望や困っていることなどをお聞きし必要な支援を行いながら安心して入居して頂けるよう信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談いただいた内容から現状を把握し、よりよい支援ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはその機能を維持できるように見守り、お手伝い等を通して共に生活し協力しながら過ごしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や必要な物を調達して頂くなど、協力をお願いしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナを含め感染症に気を付けながら、面会等で馴染みの方との交流をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルス5類移行後は徐々に面会を可とする体制にしている。</li> <li>・利用者の馴染の場所への訪問希望があれば応ずる体制にし、馴染みの人や場所との関係が続けられるよう支援している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ時間を過ごすことが多いので、お互いに体調を気遣ったり、お手伝いやイベントなどで連帯感が生まれ、スタッフが介入し取り持つことで支え合い生活できている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族が様子を教えて下さるような機会もあり、大変ありがたく今後も何かあればフォローしていく。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人やご家族より今までの生活状況を伺い、また施設での暮らしの中で本人の希望や意向をくみ取りながら支援している。	・入居時のアセスメント、日常会話、家族からの情報等から利用者の思いや意向を把握している。 ・把握した思いや意向は日常ケア・行事・レクリエーションに反映するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族やケアマネージャーから生活歴やサービスの利用状況や経過を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、気分や体調が違うので、ちょっとした様子の変化に気づき、またそれをスタッフ間で連携し把握している。それにより個々に必要な支援ができています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングにて、ご利用者様の日常の様子やご本人の意見、職員が気が付いた事を話し合いケアへ反映し実践している。又日頃から課題が出来ると、職員間で話し合いを行っている。	・医師、看護師、家族、利用者の意見を参考にして、ユニットごとに毎月のケアカンファレンスで職員間で意見交換し、ケアプランの効果確認、見直しを行っている。 ・長期1年、短期3～6ヶ月とし、期間終了前にモニタリングしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や日誌に記録し、問題が有る時には話し合いし申し送り、皆で情報の共有をしている。 決まった事は実践し結果もミーティング等で話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様、家族の方の意見を聞いて、出来る限り工夫をし柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活歴を考慮しつつ集団生活でも本人らしく過ごせるように個々に合わせ支援している		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療して頂き、緊急時には24時間対応で適切な医療が受けられている。ご利用者の病状によっては専門医を受診している。 又家族の方の意向により、他病院を受診している方も居る	・内科医の訪問診療は月2回、歯科衛生士は口腔ケアのため毎週訪れている。歯科衛生士の助言で治療があれば歯科医が訪問している。 ・通院は、原則家族が同伴し、診療結果を口頭で職員に伝えている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護、月2回の往診時に状態の説明を行い、指示を頂いている。それ以外は往診医との連携で適切な医療看護を実施している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、往診医からの情報提供をして頂き、その後入院先のソーシャルワーカーと情報の交換を実施している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、入所時に当施設で出来る事の説明を行っている。その時期が来た時には、往診医から説明してもらい、家族の方の意向に沿って支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化や終末期への事業所方針があり、入居時に本人と家族に説明している。</li> <li>・看取り期には、医師と看護師がケアにあたっている。職員はサポート要員として介助を行っている。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要時に、対応についての話し合いを実施している。又ミーティング、カンファレンスにでも実施。 5月よりコロナ5類となったが、コロナ発生等で消防士による訓練は実施できなかった。今後検討		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の避難訓練を実施していたが、コロナ規制、コロナ発生により1回しか実施出来なかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間想定を含めて避難訓練を行っている。利用者も訓練に参加し、2階の住居者を1階まで誘導している。</li> <li>・災害備蓄品は水、レトルト食品、羊羹、卓上コンロ、防寒用アルミシート等を事業所内倉庫に保管している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にご利用様に敬いの念を持って声掛けし対応している。 プライバシーにさわる会話は、他者に聞こえない様に配慮している。	・事業所玄関にプライバシーポリシーを掲示している。 ・プライバシー保護に違反するような発言には、管理者がその場で注意し、ミーティングでも取り上げ、職員に自覚を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中でご本人の希望や、思いを聞き尊重する事を心掛けている。会話が難しい方は職員が思いをくみ取り対応し自己決定が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活パターンやその日の体調を考慮し、ご本人の希望に添った支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に洋服を選んで頂いたり、個々の希望にて訪問理容に髪を切ってもらったり、入浴時に髪染めを実施している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の作成時に食べたいメニューをお聞きし取り入れたり、食事の盛り付け等を行って頂いている。 行事食は希望に添うメニューにしている。	・食事は手作りにこだわっている。調理は職員が担当している。土・日は利用者の好みを聞いて、朝食をパン食にするなど各ユニットで献立の工夫をしている。 ・行事食には、チラシ寿司、ハンバーガー等利用者の好みのものを提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当事業所の配食にて、バランスの良いメニューに成っている。 個々に合わせた食事量や食形態で提供している。水分量・食事量を記入し足りない方には捕食・補水を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けし実施、介助が必要なご利用者には職員が対応している。 週1回の訪問歯科の衛生士に歯磨き困難な方のアドバイスや嚥下状態を確認している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る範囲で、自立を促し必要に応じ介助を実施。 排泄表を記入し排尿パターンがわかる様にしている。	・排泄介助は、利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。 ・夜間は利用者の睡眠を優先しているが、失禁が予想される利用者には2時間おきに様子を見ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトを食べて頂いたり、オリゴ糖や運動を実施している。 排便の状態で、訪問看護師や医師に相談し個々に合わせて薬を処方して頂いている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望に添って、入浴時間や、湯の温度の調整を行っている。 自立している方には、介入しすぎない様に心掛けている。	・入浴は週2回、午前中に行っている。金曜日は入浴しないレクの日と決めている。 ・入浴中の利用者と職員の会話でくつろいで入浴できる雰囲気を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や状態に応じて、睡眠・休息の支援を実施。 室温や加湿、布団ほしを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量を把握し服薬時にも本人が飲み込むまで確認している。 服薬チェック表を作成し、3段階のチェックを行い飲み忘れが無い様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が何が出来るかを見極めたうえで、体調等に配慮し日課への参加をして頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩の実施。自立の方数名一泊旅行や、買い物に行き好みのおやつを購入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気の良い午後には、事業所内の散歩や外気浴を行っている。</li> <li>・コロナも5類となり、ディズニールンドに夜のパレードを見に一泊旅行を行った。参加できなかった利用者は、ドライブで鎌倉・江ノ島に行った。</li> </ul>	利用者の気分転換や体力維持のため、現在行っている散歩や外気浴の継続が望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは個々で預かっていて、施設で管理し、個々の欲しいものは職員が購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話できる方は少ないが、必要に応じ実施。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に飾り付けを行ったり、空調や電気を細目に調整している。ご利用者の通る所を考慮し物を置かない様になっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リビングの清掃・換気・消毒はコロナ感染対策を継続している。</li> <li>・利用者と一緒に折り紙でお雛様を作って、利用者の部屋の入口に飾ったり、工作で桜の花を作ったりして、季節感を味わっている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースは限られているが、浴室前ソファを利用したりしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を置き個性を活かした、居心地の良い空間作りを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の居室には、エアコン・クローゼットは事業所が設備し、その他は利用者が馴染みに物を持ち込んで夫々の居室造りをしている。</li> <li>・居室担当制を採り、職員は部屋の整理・整頓を行っている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはネームプレートを置き、季節の飾りを行っている。トイレもわかりやすい様に目線に表示している。		

事業所名	もえぎケアセンター下倉田
ユニット名	菊の家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングにて日々のサービスの振り返りを行い入居者様に対して適切な対応でサービスを提供出来ているか話し合いを行い、理念をもとにケアの方向付けを行うように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の交流として「秋祭り」を実施する予定でしたがコロナウイルスの影響で中止になっている。近所の散歩に行く際には率先して挨拶をして交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して情報共有を行っている。入居の問い合わせの相談にはニーズに合わせアドバイスを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において、実施しているサービスや活動報告を行い、委員の方々から頂いた様々な意見を参考にサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所や担当ケースワーカーなど連絡を密に行い関係を築いている。運営推進会議で事業所の取組みを報告して連携を深めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	毎月のミーティングで身体拘束廃止委員会を実施。不適切なケアや身体拘束に発展しそうな事が起こらないように身体拘束の定義を理解し、意見交換や話し合いを行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所研修や外部研修に参加している。毎月のカンファレンスの際には不適切な声かけや対応について話し合いを行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している入居者様が多く、日常的に学ぶ機会がある。運営推進会議にも参加して下さっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際、ご家族等に一方的な説明にならないよう留意している。重要事項等を説明し、理解した上で契約を結んでいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族の意見や要望を伺い管理者に報告し、職員に周知している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで日常業務等の問題点を話し合い、職員からの提案やアイデアを十分検討して運営に反映している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間の調整や職員の要望に沿ったシフトを作成し、より働きやすい環境作りに努めている。 職員全てに公平に給与ベースアップを行っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修に参加して研修内容をまとめて職員に共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	訪問歯科と連携した口腔ケアの研修等、コロナ禍で開催が中止になっていたが少しづつ外部の交流や研修会等を増やし、サービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始される時に本人のとりまく環境や生活状況を把握して共有する。声かけや観察を繰り返し行い、職員との関係づくりに努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階で連絡や面談を行い要望や不安等を聞き取り行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人や家族と話し合いを行い状態に合ったサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で入居者様と一緒に調理や家事を行う事で、お互いに支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に日々の様子や状態等を細かく報告し、職員とご家族との関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会を中止にしていたが消毒、マスクの着用をしていただき面会を緩和している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に役割を決めて、家事の分担や得意な事を活かし、入居者様同士が支え合える支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても介護全般の相談や支援を行い、関係を継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員間で協力をしながら意向に沿った支援を行うよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談等で生活歴を伺い、職員間で共有し、過去の生活環境に近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、食事量、水分量、排泄等のこまめに記載を行い、健康状態を把握している。生活状況に合わせて支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで意見交換を行い支援の方針や個々の対応を話し合い現状にそくした介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の観察、気づきを心掛け個人記録や日誌等で情報共有を行っている。記録した情報を元に支援の見直し等に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに合わせて、家族の代わりに定期診療や日用品の買い物等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交流として「秋祭り」を行う予定だったがコロナで中止となる。時期を改め、地域との交流を増やせるよう努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の訪問診療やかかりつけ医の受診等、相談や情報共有を行い関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護師に報告、連絡、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に訪問診療がある為、その際に報告、相談を行っている。 緊急時や入院時も情報共有や連携を取れる様に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医療関係者との密に連絡を取り職員同士で情報共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には社内マニュアルに基づき行動している。 また、平時から職員同士で声を掛け合い、確認している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、職員だけでなく入居者様も身につくよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけや対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から質問を投げかけ入居者様の思いや希望を把握するよう努めている。拒否などがある際には意志の尊重に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の気分や体調を伺い、それに合わせて行動し一日を楽しく過ごせる様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣、整容が必要な方には合わせた支援を行い、身だしなみを整えておしゃれを楽しんでいただいている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が調理をする時は入居者様の希望を取り入れたメニューを考えている。入居者様同士で副菜の盛り付けや下ごしらえを行い楽しみながら行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態と嗜好を理解した上で、また毎日の血圧測定等や体調の観察をして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は、口腔指導を元に必要時は介助し、全介助の方は毎食後、行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方は、見守り排泄の有無を確認している。オムツの方には定時と、排便の際に行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動を取り入れて予防をしている。無排便が続いてる際は、下剤を追加して対応している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の入居者様に合わせ、同性の支援や時間帯等の工夫をして対応している。週2回の入浴を実施出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は離床を心がけているがご本人様の体調により、離床を行っている。夜間は必要に応じて離床センサー等を使用して安心して睡眠が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は事故のない様に細心の注意を払い、また症状の変化があれば往診医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが積極的に取り組めることを模索、または情報共有して楽しめる様に支援している		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそった戸外への外出をできる様にシフトを調整し対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物品をユニットで相談し代行して購入している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの連絡はあるが、入居者様から電話連絡する事はない。コロナの制限が緩和されてからは面会が増えてきている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースや廊下に入居者様と一緒に製作した、季節の飾り付けを掲示し、季節感が溢れる空間にしている。空調管理等を行い過ごしやすい空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを設置しており、一人になりたい時や皆様と過ごしたい時など自由に過ごせる空間を提供している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人とご家族と相談した上で、馴染みのある家具や雑貨類を置いて以前の生活により近い空間で心地よく過ごせる様に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の入居者様が安心して過ごせる様に環境づくりを行っている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 もえぎケアセンター下倉田

作成日 令和 5 年 3 月 27 日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	コロナで閉じ籠りだったため、入居者の生活の張りや体力維持のために楽しみながらできる日課を工夫する。	生活を楽しみながら気分転換、体力維持をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭の散歩を日課にする</li> <li>・園庭で外気浴を兼ね茶話会を行う</li> <li>・近隣の公園やマーケットに出かけ、気分転換をする。</li> <li>・入居者のやりたい事を聞いて支援する。</li> </ul>	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。